



認知症の

本人

ご本人交流会

ミーティング

本人ミーティングとは、認知症のご本人が集まり、自らの体験や希望、必要としていることを自由に語り合う場です。

本市では昨年12月の第1回開催を経て、今年7月9

日に道の駅まくらがの里こがで第2回目を開催しました。

会場では常に笑顔があふれ、ご本人同士の活発な意見が交わされるなど、大変有意義な時間となりました。



困り事とその解決方法



忘れないようにメモを書くが、それでも忘れてしまう。



思い出せない時は、あまり深く考えない。「まあいいか」となる。分からないこと・困った時は妻に相談している。



領収証や紙の書類等、ためると分からなくなったり、転んだりの原因になる。だからこそ捨てる勇気が必要。

本人ミーティングに参加してみて



集まって話ができる場所があるのはうれしい。



一人じゃないと安心するし、心強くなる。



私が希望していた内容とまる写しで、大変うれしかった。



忘れなければ、また本人ミーティングに来たいな。回数も増えたらうれしいな。

診断を受けた時の気持ち、今の気持ち



名札を着けて生活しているわけではないので、目に見えて認知症と分からないから難しい。



忘れるのは怖い。でも、周りに「私は認知症だよ」と言うのは平気。治すことはできないけど、遅らせることはできるから。



新しい認知症観の考え方は良いと思う。私はもう新しい認知症観の考え方を持っていると思う。

私が望む古河市での暮らし



今までと同じく、友達と仲良くフラダンスをやったり、お話ししたりできたらと思います。



いつでも楽しく暮らせるような笑いのある毎日を過ごしたいな。



助けていただいた時に「ありがとうございます」と言いたいです！



高齢介護課
小田原係長

本人ミーティングは、ご本人の声を起点とし、地域と一緒に考え「認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり」につなげることを目的としています。ご本人だからこそその気付きや意見を、施策に反映していければと思います。また、仲間との出会いの場、居場所づくりも目的の一つです。

本人ミーティングが、また来なくなる場所、安心して話ができる場所になるよう、今後も継続して開催していく予定です。お気軽に参加してみてください。

どんな症状が気になったか

話にまとまりがなく、とりとめのない話になってしまふ。

お金の計算ができなくなり、生活の中で違和感を感じるようになりました。

物忘れや家に引きこもりがちになり、物を収集する癖が悪化しました。

認知症の人とご家族が暮らしやすいまちとは

同じ地域に本人ミーティングに参加したい人がいるので、交通の便が良くなってほしい。

「新しい認知症観」がもっと若い人にも浸透すると良いなと思う。

家族同士だからこそ話せる・共感できることを互いに共有しています。



家族も
ミーティングを
行っています